坂手隈城跡

１．名称及び指定区分

坂手隈城跡　史跡

２．所在の場所

中津市大字相原 3198
中津市大字相原 3199－1
中津市大字相原 3199－5
中津市大字相原 3200－1

３．所有者の氏名又は名称及び住所

中津市
中津市中央町２丁目３番１号

４．説　明

坂手隈城は、沖代条里を潤す大井手井堰（三口井堰）築造に関わるお鶴と市太郎を合祀する八幡鶴市神社本殿を中心に遺構が展開する。

四角い台地縁辺部を三角に切り取るように「外堀」がほぼ直線的に入れられる。そして、さらに内側に幅の狭い「内堀」が湾曲しながら延びる（一部消滅）。外堀の内側には土塁が残り、内堀との間に３段の曲輪が築かれている。さらに、内堀内部も本殿部分をピークとして、南北にそれぞれ一段の曲輪が築かれている。

今回提案するのは外堀・土塁・曲輪の一部である。外堀は延長約 100m、上面幅約 7.2m、底面幅約 3.7m、最大深さ約 1.5mである。本殿側に基底部幅約 6m、高さ約２mの土塁を併走させている。残存状態がよく中世の城館の様子を知ることができる貴重な遺構である。一次史料には、観応２年（1351）年の古文書に「酒手隈」としてその名が見え、市内の城の中で文書に城の名が出る最も古い城である点も重要である。

また、一部発掘調査された外堀南端部では堀内より石畳が検出されている。これは江戸期に日田往還として利用された痕跡と考えられ、往時の主要道の形態を考える上でも貴重である。

５．参考資料

『坂手隈城跡』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第６集 2005
『中津市の中近世城館　資料編』中津市文化財調査報告第 93 集 2019
『中津市の中近世城館　各説・総括編』中津市文化財調査報告第 107 集

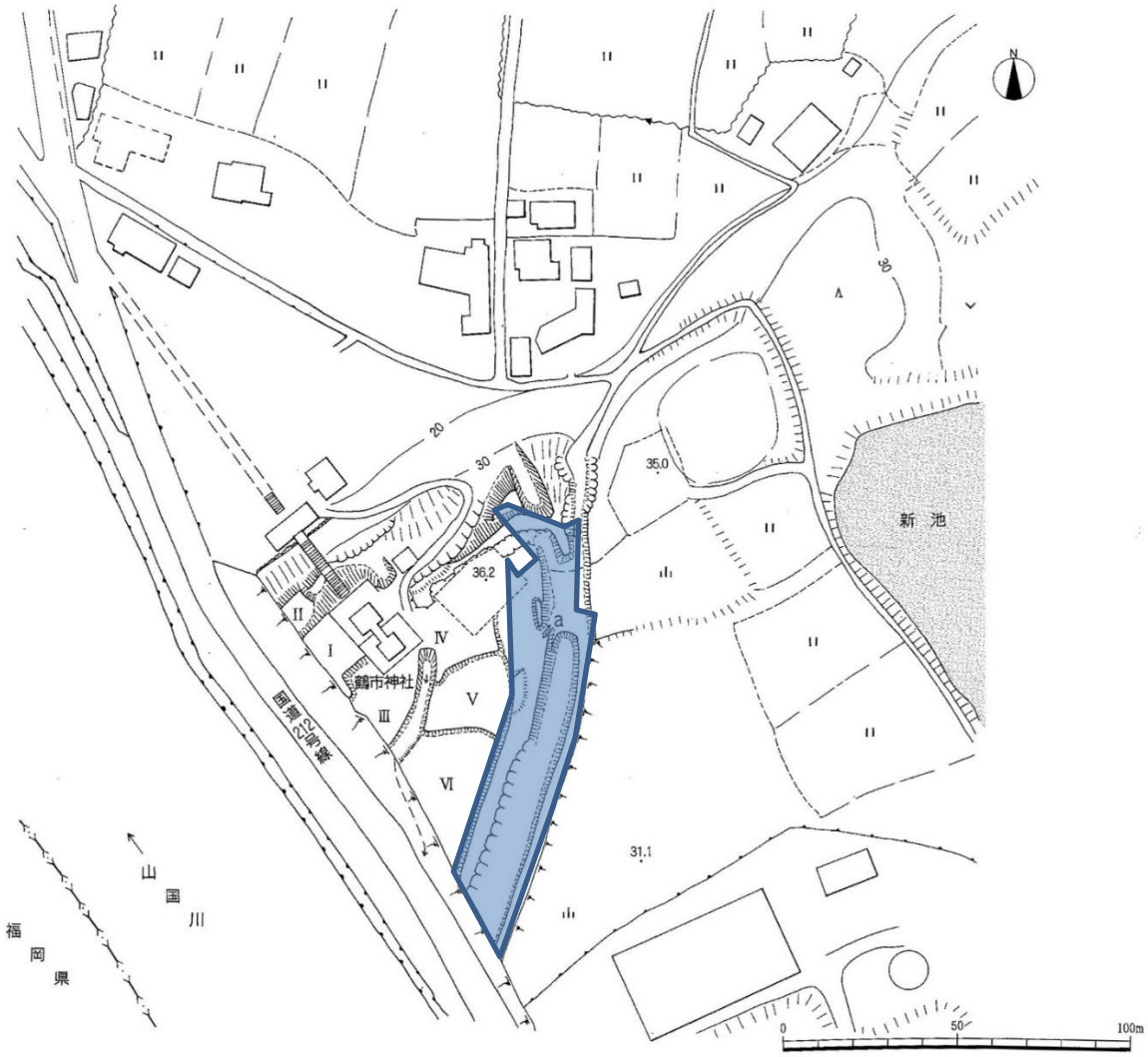
６．添付資料

資料１.写真

外堀（北から）

土塁

資料２.位置図と指定範囲略図



『大分の中世城館』第４集（大分県教育委員会 2004）を改変し転載